老舗15代目が語る中山道本庄宿　（第６回本庄まちゼミ）

今回のサブテーマは「諸井家を通して見えてくるもの」です。渋沢栄一翁とも縁が深い「諸井家」は、実業家・外交官・作曲家・芸術劇場館長など多才な方々を輩出しています。

①本庄宿を作った「花の木18軒」のなかで、本庄一番乗りを果たした「諸井家」

㋐「花の木18軒」は、もともとは世良田（太田市）近辺を本拠地としていました。

㋑「諸井家」は永禄２年（西暦1559年）に、関根・戸谷・内田の３家は永禄３年（西暦1560年）に本庄に移り住んだと言われています。

㋒戦国時代、本庄地域は「上杉」「北条」「武田」の三大勢力が入り乱れる、関東でも有数の紛争地帯でした。

→私が考える「花の木18軒」の特徴

①自主独立の精神と行動を大切にする。

②情報を集め、ネットワークを組む。

③歴史を大事にしながらも、新しいことを好む。

㋓「花の木18軒」の特徴に留意して「諸井家の人々」の明治以降の活躍を追うことで、「多才な諸井家の人々」のことはもちろん、江戸時代の本庄宿の人々のことをより深く知る鍵も得られるのではないかと期待して、今回のまちゼミの資料作りに取り組みました。

②「諸井家の人々」の実業界での活躍　　～渋沢栄一翁に薫陶を受ける～

㋐諸井恒平‥東諸井家１１代目。家業の養蚕繭糸（けんし）業を継ぎ、明治１６年本庄郵便局局長となる。渋沢栄一翁の誘いで日本煉瓦製造株式会社に入社、経営を学ぶ。その後秩父セメント株式会社を創業し、関東大震災後の需要急増に応え、会社は大きく発展する。

（本庄の諸井家には、南諸井家・北諸井家・東諸井家の3家があります。）

㋑諸井貫一‥日本経済界のリーダーとして活躍。産業教育功労者として表彰。

㋒諸井虔‥バンカーとして活躍。地方分権推進委員会委員長や西武グループ経営改革委員会委員長なども歴任。　　※諸井虔さんと父は、安養院の檀家仲間でした。安養院ご本堂修復工事の際には多大なご協力をいただきました。

（㋑㋒のお二人も共に秩父セメントの社長を務めました。このお二人の詳細につきましては、次回以降のまちゼミの中でより詳細に取り上げる予定。）

③近代資本主義に貢献する「山師的・錬金術的思考」から「合理的な科学」へ

経営者	当時の呼称	開発地
諸井恒平	セメント王	武甲山
小倉常吉（深谷市）	石油王	秋田・新潟の油田
大川平三郎	製紙王	日本各地の森林
古河市兵衛	鉱山王	足尾銅山・草倉銅山（新潟県）
戸谷半兵衛（参考）	中山道一の豪商	足尾銅山

④外交官・郷土史家として活躍する「諸井六郎」

㋐外務省で条約改正（関税自主権の回復）調査係を主宰する立場になる。
諸井達は、精緻を極めた各国の税制度比較表を作り綿密な根回しを行った。
条約改正が成功した後に、政府部内では「（諸井）六郎がいなければ、今回の条約改正は実を結ばなかっただろう」とまで言われる。

㋑本庄宿の歴史書の原点となる『徳川時代の武蔵本庄』を表す。

⑤「諸井家の人々」の芸術家としての活躍

㋐諸井時三郎（号：春畦）

母方の祖父である渋沢誠室は「書法の私塾」を開いていた。その影響も受け、時三郎も書を好む。西川春洞（しゅんどう）に師事し天分を磨き、2000人を超える門弟の中で「春洞門下の七福神」と称せられた。妻久楽（号：華畦）もまた七福神の一人。古来よりの書法を研究し欧米の学理も取り入れ独自の「書法三角論」を表す。推されて「明治書道会」初代会長に就任し各種書道界の役員となり近代書道の復興と後進の育成に尽力した。菩提寺安養院には当時としてはめずらしい妻の書による顕彰碑「諸井春畦先生碑」が立つ。

㋑諸井三郎

諸井家は音楽好きが多いこともあって幼少時よりピアノを始める。東京帝国大学文学部美学美術史学科３年の時に、諸井三郎の作曲した作品を世に出したいと考えてくれた大学の仲間達と楽団スルヤを発足させる。スルヤに関係する人物には小林秀雄・大岡昇平・三好達治・中原中也などがいる。諸井三郎は中原中也の詩に曲をつけた作品を楽団スルヤで発表している。1927年から1931年までに７回の演奏会を開いた楽団スルヤは、アマチュアの楽団ながら当時はソナタやピアノ・トリオを作曲する人は稀だったため、その活動は大きな反響を呼んだ。1932年から1934年までベルリン高等音楽学校に留学し、1934年には卒業作品として「交響曲第1番」を作曲し、現地で初演された。音楽教育にも熱心で諸井が解説を執筆しているベートーヴェンやモーツアルトなどのスコアは、音楽愛好者の間で広く愛用されている。三好達治とはコンビで、東京工業大学の大学歌を制作している。社団法人大日本音楽著作権協会（＝現在のJASRAC）創立時（1939年)の理事も務めた。なお、「尾高賞」（日本の現代音楽の作曲家に与えられる作曲賞）の名前のもとになった尾高尚忠（ひさただ）氏と諸井三郎は、縁戚関係にあたる。

㋒諸井誠　（別紙にて説明）

⑥「諸井家の人々」を通してみえてくるもの　～音楽は理論とともに鳴り響く～

以上